

## 《タイ北部》「チェンマイを民族・文化・学術交流の拠点に」 ノース・チェンマイ大学のナロン・チャワシン学長に聞く

タイ北部は、アジア開発銀行(ADB)が主唱する「大メコン流域圏(GMS)」の中でラオス北部、ミャンマー北東部、中国雲南省に跨るインフラ開発構想や経済連携のハブ地域としての役割を担っている。

その中心都市・チェンマイで創設9年目を迎えた「ノース・チェンマイ大学(NCU)」は、同地域では唯一工学部を持つ私立大学であり、地域の発展に貢献する意欲に溢れ、政府・民間部門で即戦力となり得るような技術者や実務者の育成を目指してきた。

ナロン・チャワシンNCU学長(創設者)は、タイ、ラオス、ミャンマー、ベトナム、中国が入り組んで隣接する国境地帯の“玄関”に当たるタイ北部は、これらの国々の「民族・文化・学術交流の拠点」でもあるとして、最近ではNCUを“国際人”養成機関とする構想も打ち出している。すでに雲南省の諸大学とは学術交流を推進しているほか、日本の私立工業大学などとの交流・連携も希望している。(NCU学長室にて。聞き手=勝田 悟)

### 故郷チェンマイへの“恩返し”

——貴方はタイ建設業界の重鎮であり、現在でもグループ企業のオーナー・社長を務める著名な実業家だが、なぜタイ北部に「ノース・チェンマイ大学(NCU)」を創設し、しかも多忙な中にもかかわらず自らその運営を担ってきたのか。

「一番訊いて欲しかった質問だ(笑)。自ら言うのも僭越だが、私はコンクリートパイルの製造・販売など建設基礎工事の分野ではタイの第一人者と認められ、実業家としてはそれなりに『功成り名を遂げた』と思っている。

今年8月で66歳になるが、一般の企業人なら定年退職後の人生を考える時期を迎えていた10年ほど前に、今後は所有地を含む自らの資産を公益事業に役立てたいと強く願うようになった。その事業は、1996年にプミボン国王(ラマ9世)陛下が『即位50周年』を迎えられたのを記念するとともに、自分を育ててくれた故郷チェンマイにも“恩返し”ができるものにしたかった。

そうした願いを抱いていた時に、国王陛下の『与えることが真の幸福への道であり、その意味で教育以上に価値あるものはない』との御言葉に啓発され、1999年になってNCUの創設に踏みきった。

妻(チャディンラット夫人)がバンコクで『チンナウォン学校』という私立小学校の創設者・校長を務めてきたことも、私の教育機関に対する関心の基礎になっていた面がある」

### 工学部重視の教育哲学

——NCUは、タイ北部の大学(注)の中で工学部を持つ唯一の私立大学という異色の存在だが、バンコク首都圏を含む全国レベルでも、多額の設備投資が必要な工学部を設置する私学はタイではまだ少ない。工学部へのこだわりは当然、貴方の経歴・経験から来るものだと思うが。

「私は大学と大学院で土木建築工学を修めたのち、外資系企業の社員から始め、のちに自ら起業した企業グループを拡大・発展させて今日に至ったが、その間、経営者であるとともに一貫して技術開発者の目線から土木建築の現場に携わってきた。



ナロン・チャワシンNCU学長

NCU創設までは大学という高等教育機関における学術研究・教育に直接関与した経歴はなかったが、一方で、建築を含む工業部門の技術者や企業人にどういう人材が求められているかについては、実業家・技術開発者両面の立場から私なりの教育哲学を持っているつもりだ。

端的に言えば、知識面での学業成績に優れているのはもちろんだが、政府・民間両部門の組織人として役立つ実務能力と人格・識見を持った人材を輩出したいということである。

また、タイ北部は、『大メコン流域圏(GMS)』の中でラオス北部、ミャンマー北東部、中国雲南省に跨るインフラ開発構想と経済連携のハブ地域としての役割を担っているが、そうした将来性ある地元を愛し、その発展に貢献しようとの積極的な意欲や起業意識に溢れた人材の育成を目指している。

具体的な教育内容としては、工学部では、電気、機械、生

産、コンピュータ、ソフトウェア各工学の学士号、および研究科では経営学、公共管理学、プロジェクト管理・評価、理学(情報管理・情報技術)の修士号を提供するなど、即戦力の技術者・管理者を政府機関・民間企業に送り込むという点で多くの私学とは異なる特色がある

### IT化と「オンデマンド教育」

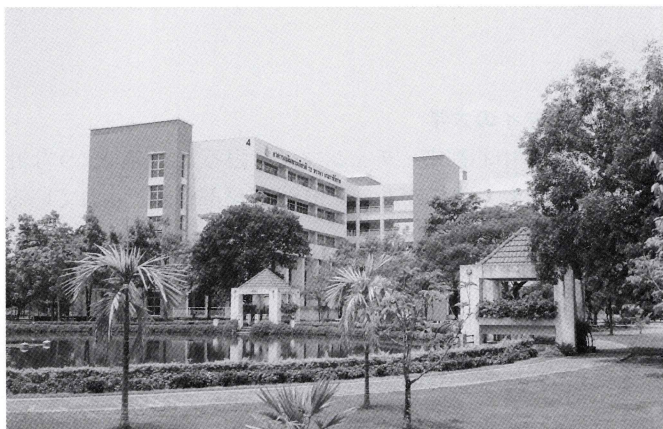
——教育・研究と大学運営・管理におけるIT(情報技術)化にも力を入れているようだ。

「まず、NCUは、国立・私立を問わず、『電子商取引(e-commerce)』管理学の教科を学士課程から取り入れたタイで最初の大学であることだ。

また、キャンパス内のITインフラの面では、『オンデマンド教育(Education on Demand)』のコンセプトの下に、『電子情報センター(e-information centre)』、『電子学習センター(e-learning center)』、『電子商取引教育センター(e-commerce education center)』、『電子図書館(e-library)』などを設置し、それらの施設を含む全ての教育・研究施設間を構内情報通信網(LAN)で結ぶとともに、高速回線によるインターネット利用が学内のどこからでも利用可能にした。こうしたIT化のための(建物を除く)初期投資には約8,000万バーツ(2億6,000万円)をかけた。

ワイヤレスLANも設置しており、学生はノートパソコンがあれば、キャンパス内の木陰にある机で学習しながら、各センターの情報や外部インターネットにアクセスできる。もちろん、ポルノ関連のウェブサイトなど学習に有害と判断される情報の遮断システムも組み込んである。

大学運営面では、財政・経理事務や学生課の登録・記録事務などを総合的に管理する『総合キャンパス管理システム(TCMS)』をマレーシアから導入した。さらに、各センターなどの施設・設備は学内だけでなく、一部は近隣社会の利用にも供されており、地域の社会・経済開発や生涯教育活動に寄与するようにしている」



NCUキャンパスの一角

### 博士課程設置の狙い

——2007-08年度の第2学期からは博士課程も設置されたが、その狙いは?

「博士課程では、開発行政学博士号の取得を目指して、現在16人が研究に専念している。同課程設置の狙いも、高度の学識を持った研究者であることもさることながら、この地域の社会経済開発計画の立案・遂行でリーダーシップを担える創造的な人材を養成したいとの願いからだ。

博士課程は、2006年にUNCの副学長(学術業務担当)に就任したナロン・シンサワット博士が中心となって運営されている。ナロン博士は、国立の名門『タマサート大学』の副学長やバンコクの私学『エーシャカネー(東南アジア)大学』の学長を歴任した政治学者だが、本学の学士課程では『科学の哲学(Philosophy of Science)』というテーマで教鞭を執っている。その根底には、科学方法論に関する知識や批評能力がすべての学習・研究の基礎にあるべきとする教育方針があり、そうした方針は博士課程でも貫かれている。

また、学生が将来官吏や企業人として有用な人材になるためには、組織人としての識見・人格を体得しなければならないとする点で私とナロン副学長は考えが完全に一致している。ファーストネームが私と同じ(ナロン)だからというわけではないが(笑)、学術・研究面は副学長を信頼してお任せしている」

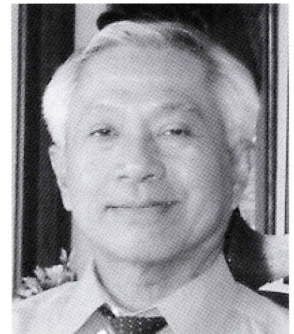
### “国際人”養成構想

——最近では、タイ北部は「民族・文化・学術交流の拠点」でもあるとして、NCUを“国際人”養成機関と位置付ける国際的連携・協力構想を打ち出したそうだが、具体的に近隣諸国の関連機関などとはどのような交流が進んでいるのか。

「同構想は、具体化に向けて近隣諸国を中心にしたいいくつかの大学と合意文書(MOU)に調印した段階だが、タイ北部に対して経済的な影響を強めている中国がやはり一番理解を示し、積極的な協力姿勢を示している。

すでに、雲南省の昆明理工大学(津橋学院)および雲南民族大学(国際教育学院)と、①学生の交流と留学生交換、②大学教職員の相互派遣、③共同研究の推進、を骨子としたMOUに調印した。雲南師範大学も連携を望み、代表がNCUに来訪している。

NCUは、タイ北部の開発に貢献する技術者の育成を教育目標のひとつにしていることはすでに述べた通りだが、昆明



ナロン・シンサワット  
副学長

理工大学とは学術機関としての立場から、特に工学部の連携を通してGMS『上部地域』の総合的な開発に貢献していきたい。

また、『民族・文化の交流』という点では、雲南省の少数民族系学生を主な教育対象にする雲南民族大学との関係確立は意義深い。同大学は、同省で初めて外国人留学生の受け入れを決めた教育機関であり、中国語研修や民族・文化研究のための短期留学制度を整備している点でNCUの構想と相互補完関係にある。

ご存知の通り、タイ人の民族的な“故郷”は西双版纳(シーサンパンナ)を中心とする雲南省タイ族自治区にあり、タイ人は同省には一種の“ノスタルジア”を感じている。本学社会・人文科学部の学生には、タイ人を含む多様な民族が協調し発展させていかなければならないGMS『上部地域』であることの認識と自覚を育てたい。

ただ、民族・文化交流では、多様性の中で自らの拠って立つ所を見失うようなことがあってはならない。タイ北部にはミャンマー文化の影響も受けて開花したランナ(Lanna)文化と芸術があり、NCUでは、学生がこの独自の文化に対して誇りを持ち、それを保存しようとする意識を高めるための教育と活動にも尽力していることを強調しておきたい

## 英語による留学生教育

——タイ北部の地政学的な位置や域内の経済連携の構造を考えると、NCUの国際的連携・協力構想で中国の大学が主要なカウンターパートになるのは必然的ともいえる。

「中国の大学との連携が重要な部分を占めるのは間違いないが、我々が目指しているのは、タイ北部に隣接するすべての国々が等しく参加できる構想だ。ミャンマーなど政治状況の絡みでまだ難しい国もあるが、ベトナムの大学とも学生交流の可能性などについて交渉中であり、近くラオスの関係機関にも打診する予定にしている。また、近隣国ではないが、現在自国政府からの大学設立認可を待っているオーストラリア西部の教育法人とは留学生交換プログラムに関するMOUに調印している。

同構想は、最終的には、NCUキャンパスをタイ人学生と中国、ミャンマー、ラオス、ベトナムなど近隣国からの留学生、それに欧米諸国と日本からの留学生が英語を共通言語にして学習・研究する場にする事だ。特に、工学部は英語を媒体にする教育課程で統一することは可能だと考えている。

NCUの現状は、ネイティブスピーカーによる英語と日本語の言語研修クラスがあるだけだが、今後各国の大学・教育機関と連携・協力体制が整い、一定数の留学生が確保できるようになった段階で“国際人”養成構想を始動させたい。

英語で専門教科を担当する講師陣の確保が課題になるが、欧米諸国から博士号を取得したタイ人教員や教員交換プログ

ラムなどを通して招請する外国人教員のほか、国立チェンマイ大学の外国人教官に客員を要請するなど様々な方途を講じることになる。それに関連するが、雲南理工大学などには、米国で研究活動を行った経歴を持ち、完璧な英語を操る教員も少なくない。

それに、ご存知のように、タイでは最も“国際化”された都市であるチェンマイには、国際機関や各国大手企業の専門家やその退職者、あるいは元外交官や各国政府の元高級官吏などで教職経験者やその資格を有する人たちが多く居住しており、そうした人の何人かにも同構想への協力を要請している」

## 日本の大学との連携を希望

——タイ人学生の中国語や日本語に対する関心はどうか。

「実は、タイでも中国語クラスを設置した私学はいくつかあるが、そのほとんどが成功していない。中国語会話の素地がある華人系タイ人でも読み書きとなると習得が難しい点や、優秀な教員の確保といった問題もあり、意欲を持って始めた学生の多くもドロップアウトしてしまうケースが多い。意外と“需要”がないというのが実感だ。一方、日本語の方は高い関心を持って取り組んでいる学生が常に一定数はいる。

それに関連して、NCUの“国際人”要請構想では、日本の大学との連携・協力が不可欠だと考えている。特に、GMSの多くの開発プロジェクトでは、日本の政府機関や企業が重要な役割を果たしており、チェンマイに居住している関係者も少なくない。

その意味でも、特にNCUのような中規模な日本の私学で、できれば工学部を持つ大学かまたは工業大学と交流・連携したいと強く望んでいる。タイ北部の開発に関心を持つ日本人留学生が何人かでも出れば、日本の同地域への取り組みにとっても非常に有益なことだと思う。

また、個人的に同地域に関して博士課程や修士課程で研究したいという日本人も歓迎するし、高校卒業と同時にNCUへの留学にチャレンジする日本人学生がいればもっと嬉しい」

## (注)チェンマイの大学

タイ北部の中心都市・チェンマイに限ると、次のような計7つの国立・私立大学がある(◎印は工学部が設置されていることを示す)。

### 〈国立大学〉

- ①チェンマイ大学(Chiang Mai University)◎
- ②メーチョー大学(Maejo University)◎
- ③チェンマイ・ラチャパット大学  
(Chiang Mai Rajabhat University)

④ラーチャモンコン工科大学・北部キャンパス  
(Rajamangala University of Technology Lanna)◎

〈私立大学〉

⑤ノース・チェンマイ大学(North-Chiang Mai University)◎

⑥パヤップ大学(Payap University)

⑦ファーイースタン大学(Far Eastern College)

●ノース・チェンマイ大学

North-Chiang Mai University

<http://www.northcm.ac.th>

【概要】1999年に実業家のナロン・チャワシン現学長が創設したタイ北部の私立大学で、タイ語では「マハーユッタヤライ・ノース・チェンマイ」。キャンパスは、チェンマイ国際空港からハンドン・ホット(Hang Dong-Hod)通りを南に15kmの地点にある。総面積は約18.2ヘクタール。現在の総学生数は約1,600人。枢密顧問官のカセム・ワタナチャイ教授(Prof. Kasem Watanachai)が首席顧問に就任している。

【学部】工学部、経営学部、法学部、社会・人文科学部の4学部があるが、工学部と経営学部の学生が全体の8割を占める。特に、スラポン・ダムロンキティクン学部長(博士：Surapol Damronggittigul, PhD)率いる工学部の教科に力を入れている。大学院では、公共管理学修士号(M P A)、経営学修士号(M B A)、理学修士号(M S)が取得でき、2007-08年度からは博士課程(開発行政学)が設置された。

■ノース・チェンマイ大学学長 President

ナロン・チャワシン

Narong Chavasint

【年齢】65歳(1942年8月31日生まれ)【生地】北部・チェンマイ県

【学歴】1966：チュラロンコン大学工学部(土木建築工学)卒(次席)。70：アジア工科大学(A I T)工学修士号(土木建築工学)取得(第1期生)。

【経歴】1968：ルイス・バーガー(Louis Berger)社土木建築技師。70：T.P.C社工場・現場監理技師/セールス・マネージャー。73：S.P.プロダクツ社取締役(-95)。74：メトロポリタン・プロダクツ社社長(-現在)。78：パワー(Power)-P社取締役(-95)。85：チンナウォン学校(Chinnavorn School)理事(-現在)。88：シントゥ(Sinthu)& Q.P.S.社社長(-現在)。90：タイ日本コンクリート社取締役(-95)。97：(チェンマイ・メーリム)「プーインファー(Phu Ing Fah)リゾート・アンド・コンベンション・センター」取締役(-現在)。99：ノース・チェンマイ大学創設者・学長(-現在)

【活動】タイ・コンクリート工業協会会長。(プミポン国王後援)タイ工業技術研究所(北部地区)副所長。タイ工業連盟(F T

I)運営委員。

【家族】チャディンラット(Chadinrat)夫人との間に1男2女。長女のチュティマ(Chutima)氏はN C U副学長(経営・管理担当)。長男のチンナウォン(Chinnavorn)氏も工学部で教鞭を執っている。

【趣味】読書、ジョギング

【横顔】華人(潮州)系タイ人で華字名は「蔡森泉(チュア・シムチュア)」。潮州語での会話には堪能。

■ノース・チェンマイ大学副学長(学術業務担当)

Vice President(Academic Affairs)

ナロン・シンサワット(準教授・博士)

Assoc. Prof. Narong Sinsawasdi, PhD

【年齢】66歳(1942年4月23日生まれ)【生地】北部・ナコンサワン県

【学歴】1964：タマサート大学政治学部卒。67：(米)ユタ州立大学で政治学修士号取得。74：(米)ハワイ大学(東西センター)で政治学博士号取得。

【経歴】1964：外務省入省(三等書記官)。68：タマサート大学政治学部講師。76：同助教授。77：タマサート大学副学長(学術業務担当)。78：(日本)アジア経済研究所客員研究員。79：タマサート大学準教授。82：(シンガポール)地域高等教育開発機構(R I H E D)研究員。90：チェンマイ大学政治学部に異動。96：チェンマイ大学を勇退。以後、書籍執筆に専念。2000：[5月]エーシャアカネー(東南アジア)大学修士課程(行政学)準教授。2004：[2月]同大学学長。06：

[10月]同学長職を離任(任期満了)、[11月]ノース・チェンマイ大学副学長(学術業務担当)

【活動】1984：タイ陸軍大学客員講師(-91)。86：慶応大学客員教授、(米)ノーザン・イリノイ大学客員研究員(-87)。

【家族】1971年にピムプラパイ(Pimprapai)夫人とハワイで結婚。1男2女。

【横顔】海外の研究者・専門家がタイ政治史を研究するための基本文献のひとつ「Thailand: Student Activism and Political Change」(Dr. Ross Prizziaとの共著)など政治学関連の英文著書多数。また、余暇時間を利用して自らタイ歌曲多数を作詞・作曲(英文歌詞)し、それらを米国人女性歌手が歌ったC D(アルバム)をプロデュース。最近では英文の純愛小説を書くなど多才ぶりを発揮している。1998年には、独自の記述システムによる「英タイ辞典」を編纂し、2001年には英文の哲学書「Souls and the Universe: A Scientific Inquiry」をOriental Scholar Press(Bangkok)から出した。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)